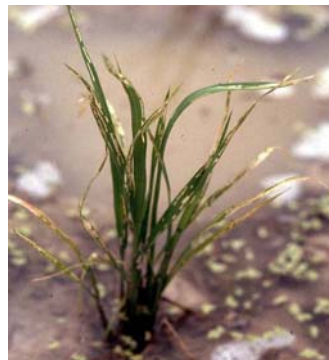


平坦地～中間地での イネミズゾウムシの耕種的防除体系



農薬を
使用しない
防除体系です

成虫の被害
(株絶え)



幼虫の被害
(生育不良)



移動が終わる頃を
予測して田植え時期
を決めよう



まず

成虫が周囲の水田へ
移動し終わってから
田植えをする

水田への成虫移動ピークに
田植えをすると被害大

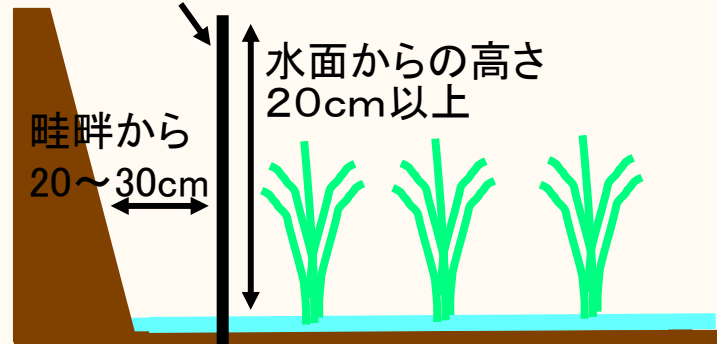
イネミズゾウムシ成虫の移動が終わる時期の予測方法
3月1日以降の毎日の平均気温 -14°C の数値を足して
110になる頃です(平均気温が 14°C より低い日は除外)

さらに

畦畔際に障壁を設置して
成虫が水田の中へ
入り込むのを防ぐ

成虫は畦畔から歩いたり、水面や
水中を泳いだりして、水田の中へ
入ることが多いです

障壁(あぜなみシート等)



障壁が邪魔で
内側には
行けないなあ...

イネミズゾウムシの被害と移植時期の関係

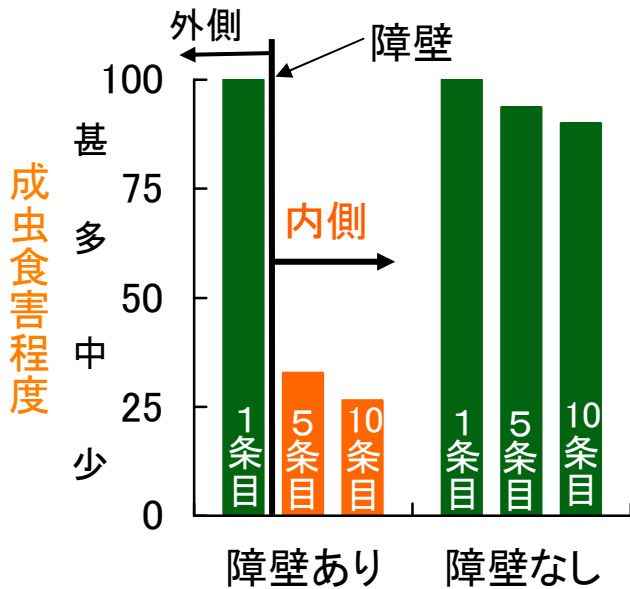
調査項目	移植時期			
	飛び始め～ 水田移動ピーク	水田移動ピーク ～移動終わり	水田移動 終わり頃	水田への移動 終わりの 7～10日後
成虫食害度	46.6	41.0	19.6	7.1
幼虫寄生数 (頭/株)	23.9	19.4	7.4	—

注1 各時期の有効積算温度(日℃)は次のとおり。
飛び始め:40日℃、水田移動ピーク:74日℃、水田移動終わり:110日℃。
注2 数字は農業試験場でこれまでに行われた各種試験の平均値。
発生程度は中～多発生。成虫食害度は移植7～14日後、
幼虫寄生数は7月上旬に調査。

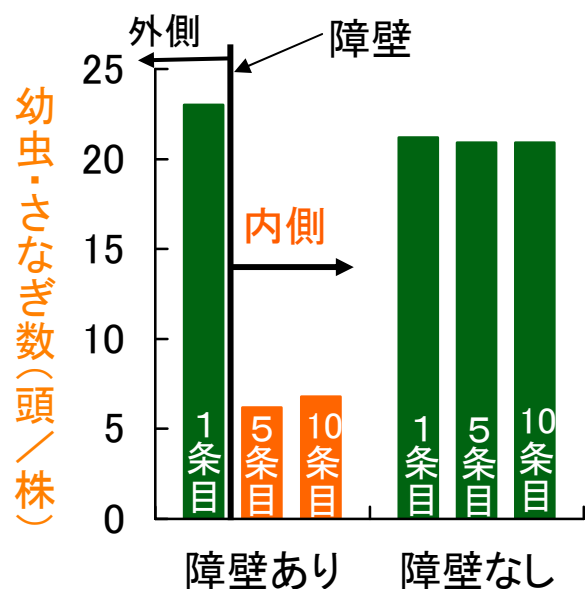
平坦地では
5月末～6月初め

障壁の設置によるイネミズゾウムシの被害減少効果

【成虫に対する効果】



【幼虫に対する効果】



【成果の活用面・注意点】

1. 普及地域は**6月移植の水稲栽培が可能な平坦地～中間地**です。
2. イネミズゾウムシ水田侵入後に畦畔板を設置した場合、効果は期待出来ないので、移植前か移植直後に設置して下さい。
3. 障壁には、イネミズゾウムシがよじ登れない素材のシートや板(あぜなみシート等)を使用して下さい。
4. 強風時には、設置した障壁が倒れる恐れがあるので、適宜対策を施して下さい。
5. この技術を初めて使う際には、農業試験場もしくは最寄りの農業改良普及所にご相談下さい。

問い合わせ先

鳥取県農林総合研究所農業試験場 有機米栽培法開発グループ(環境研究室)

TEL:0857-53-0721/FAX:0857-53-0723/E-mail:nogyoshiken@pref.tottori.jp

本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい